

行政事業レビューシート (厚生労働省)

予算事業名	食品添加物、食品用器具・容器包装等の安全性確認の計画推進事業		事業開始年度	平成20年度		作成責任者
担当部局庁	医薬食品局食品安全部		担当課室	基準審査課		森口 裕
会計区分	一般会計		上位政策	-		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	食品衛生法第10条、11条(添加物)、食品衛生法第18条、62条、食品安全基本法第24条(食品用器具・容器包装)		関係する計画、通知等	-		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	最新の科学的知見により、食品添加物等の規格を整備するとともに食品及び食品用器具・容器への化学物質の使用基準を設定・検証し、添加物等が使用された食品の安全性を確保する。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	食品添加物等の規格基準の設定・再評価のため、バイオテクノロジーの進歩を踏まえた化学物質の分析試験を実施し、使用及び流通実態の調査結果と併せ曝露量を推定し、制度設計を検討する。					
実施状況	分析試験の対象:規格が設定されている既存添加物26品目 添加物使用量実態調査:アンケート調査を依頼する食品事業者3,000社 添加物毒性試験:変異原性試験30品目、90日反復毒性試験5品目、中期多臓器発がん性試験5品目、慢性毒性・発がん性併合試験16品目					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	975	938	932	886	713
	執行額	933	940	704		
	執行率	95.6	100.2	75.5		
	総事業費(執行ベース)	933	940	704		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	本事業に基づく調査結果は、規制対象物質に対し規格基準を設定するにあたり重要なデータとなるため、コーデックス委員会等の国際会議及び薬事・食品衛生審議会の審議において公表される事が前提となっており、適正な内容であるよう努めているところである。 なお、添加物毒性試験等に必要の遺伝子組換え動物の飼育業務等、極めて特殊な技能を要する随意契約案件については、本省公共調達委員会の承認を得て契約を行っているところであり、また事業終了後、その用途についても適正な把握に努めているところである。				
	見直しの余地	使用基準値設定のための食品安全委員会における食品健康影響評価の審議状況、並びに国内外での使用実態等を踏まえ、今後安全性の確認試験を行う添加物等について、中長期的な年次計画の見直しを図る。また、器具・容器包装等の規格基準に関するポジティブリスト制度の整備に向け、現在までに収集した科学的知見及び市場流通の動向等を踏まえ、制度施行のための予算を必要とする時期について検証する。				
予算・監視の効率化	一部改善(事業内容を見直し予算要求に反映) 薬等ポジティブリスト制度推進事業費について、農薬の使用状況等を踏まえ、対象農薬等の選定など事業計画の見直しを行うこと。					
補記						

厚生労働省
299百万円

【一般競争入札】

【随意契約】

A 民間団体等

10者 84百万円
(内訳別紙)

B 民間団体、自治体等

11者 215百万円
(内訳別紙)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補
足する)
(単位:百万円)

[食品添加物に関する規格基準の設定及び見直しのための実態調査等]

[食品添加物に関する規格基準の設定及び見直しのための安全性確認試験等]

事務費405百万円

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A.(株)野村総合研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	合成樹脂中の化学物質データ収集	16			
謝金	謝金(データ提供者)	2			
旅費	委員等旅費	4			
雑役務費	翻訳料	2			
計		24	計		0
B.(株)化合物安全性研究所			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
需用費	安全性確認試験	30			
計		30	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

